

出版の復権は可能か？ ——本と雑誌の魅力を問い直す——

1970年代から80年代にかけて、日本の出版界は絶頂期を迎えていた。週刊誌は100万部を目指して、あざとい記事やヌード・グラビアでトップ部数を競い、写真雑誌・投稿雑誌は隠し撮り写真と放言ハガキで読者を、これでもかと刺激した。小説家はヒット作を一年に一本出せば食っていった。全ての情報発信とその拡散は出版社からなされた。

そして2019年。ITが生活の隅々まで行き渡り、私たちは全ての情報をウェブに頼る時代変わった。誰もがスマートフォンを駆使して、無料で知りたい情報を検索し、入手できるようになった。だが私たちは果たして、以前より心が豊かになり、幸せになったのだろうか。フリーで匿名、オープンなウェブ情報は便利ではあるが、出版の熱狂を知る私には、どこか信用できない。読者が対価を払って得る、本や雑誌の情報とは大きく異なる。

アナログな出版メディアにいた当時の私たちは、作家と読み手との出会いに命を懸けた。言い換えれば真剣勝負。ウェブ情報にはそうした気概は在るのか。無いと、もし私が言ったら、学生諸君は怒るだろうか。

コーディネーター：虎岩直子 政治経済学部教授



《講師プロフィール》

瀧本洋司 1956年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。80年、出版大手の新潮社に入社。週刊新潮、書籍編集部、文庫編集部などで、取材記者の仕事をこなし、数百冊の本の編集を手がける。後年、海外出版室長として自社刊行物の海外契約の仕事に関わり、中国、韓国、台湾、英語版など多数の海外翻訳版をプロデュースした。2016年に定年退職し、現在は進学塾講師と家庭教師を務め、子供たちの文章読解力の向上を目指して指導を続ける。

日時：11月27日（水）3時限

13：30～15：10

会場：明治大学和泉図書館ホール 1F

講師：瀧本洋司氏 元新潮社編集者

予約不要：学部生の受講可 ※学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。

【教養デザイン研究科 TEL：03-5300-1529】